

グレーシア乳剤；有用昆虫への影響（2020年2月）

	種名	評価方法	供試ステージ	判定	影響日数
訪花昆虫	セイヨウミツバチ	圃場試験	-	-	翌日導入可能
	セイヨウオオマルハナバチ		-	-	翌日導入可能
	クロマルハナバチ		-	-	翌日導入可能
カブリダニ	スワルスキーカブリダニ	直接散布法	成虫	×	100日以上
	チリカブリダニ		成虫	×	-
	ミヤコカブリダニ		成虫	×	100日以上
	ククメリスカブリダニ		成虫	×	-
	リモニカスカブリダニ		成虫	×	-
ハチ	オンシツツヤコバチ	ドライフィルム法	成虫	×	100日以上
	コレマンアブラバチ		成虫	×	-
	ギフアブラバチ		成虫	×	-
	チビトビコバチ	処理枝接触法	成虫	○	-
	シルベストリコバチ		成虫	◎	-
テントウムシ	ナミテントウ	直接散布法	2齢幼虫	×	-
	ヒメアカボシテントウ	処理枝接触法	成虫	△	-
	ハレヤヒメテントウ		成虫	△	-
ハエ	シヨクガタマバエ	ドライフィルム法	成虫	×	-
アザミウマ	アリガタシマアザミウマ	直接散布法	成虫	×	-
カメムシ	タイリクヒメハナカメムシ		成虫	×	40日
	タバコカスミカメ		成虫	×	-
	クロヒョウタンカメムシ		成虫	×	-

判定；2000倍処理での死亡率◎；0～30%、○；30～80%、△；80～99%、×；99%以上

※ 表中の影響日数は、単用の試験結果に基づく、あくまでも目安であり、環境条件（低温条件、混用等）、供試虫の健康状態によりその程度は異なります。